

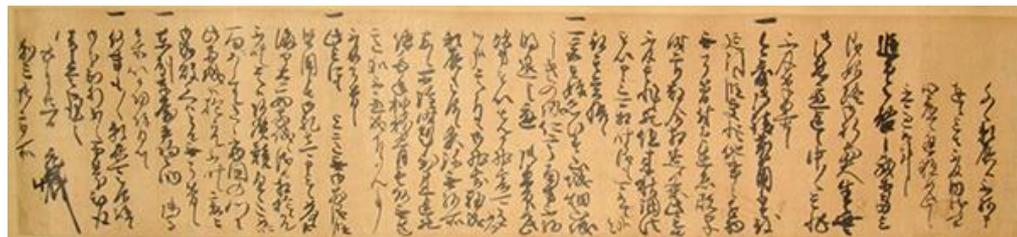
『つつきはっけん講座 & ウォーク』 第 2 回

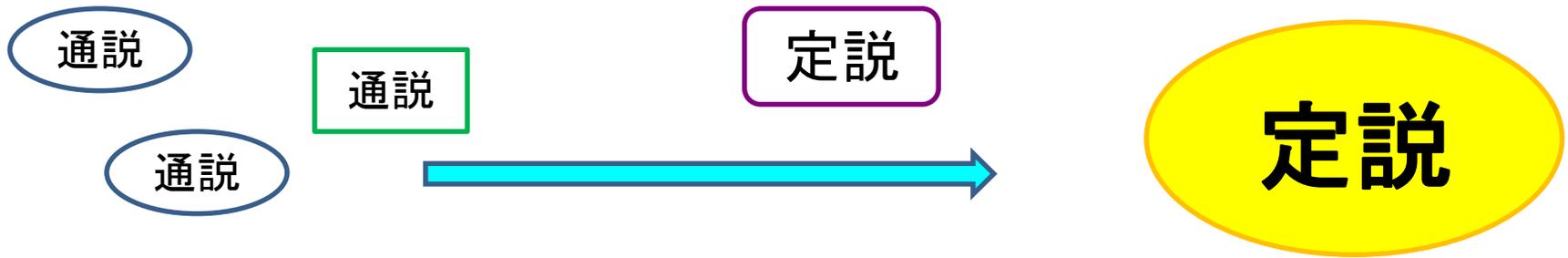
10 : 00 ~ 11 : 30 **歴史講座**

**本能寺の変 真実と謎
家康・梅雪の行動**

13 : 00 ~ 16 : 00 **ウォーキング**

**社会福祉センター ~ (酒屋神社 ~ 観音寺) ~ 宇頭城
~ 普賢寺谷 ~ 公家谷 ~ 田宮の館 ~ (新宗谷遺跡
~ 中世の館) ~ 同志社前**





- 事件発生～江戸時代：光秀の**怨恨説**
儒学の影響、主殺し悪人
軍記物、歌舞伎で取り上げる、人情に訴える
- 明治～昭和戦前：軍国主義（忠孝、海外出兵）
大陸進出の信長・秀吉の肯定 → 光秀の否定
- 昭和戦後：**野望説**、光秀人物像を見直す
計画性に乏しい→衝動的突発説、精神衰弱
黒幕説（背後に加担したもの）
義昭、朝廷、イエズス会、秀吉、家康、本願寺、堺商人
- 近年：政治状況、利害関係 → 四国問題（新史料：**石谷家文書**）

本能寺の変

天正10年(1582)6月2日早暁

光秀 : 謀反を起こす

信長 : 本能寺に宿泊中、襲われ
四十九年の人生を終える

家康 : 上方遊覧が終わり、御礼言上のため
堺の妙國寺を発ち京都へ向かう
河内飯盛山付近でこの変報を受ける

家康一行 : 軍勢もなく平服、34名

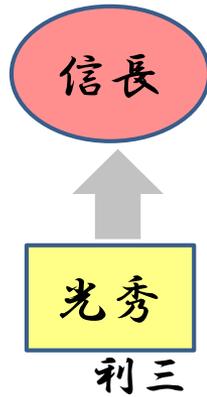
織田信長 小姓の森蘭丸に「これは謀反か？如何なる者の企てぞ」と聞き、「明智が者と見え申し候」と答えると、一言「**是非に及ばず**」と答えたと言う

その後、弓を持って応戦し数本の矢を撃つが弓が折れる 薙刀に持ち替え、敵を突き伏せるなどして戦うが、槍傷や左肩に鉄砲の銃撃を受けたため、応戦を断念奥の部屋に入り、森蘭丸に寺に火を放たせ、そのまま自害

本能寺の変



本能寺の変 明智光秀 謀反の背景・動機・理由



- 1. 天下布武
- 2. 楽市楽座、人事改革
- 3. 神願望（朝廷軽視）
- 4. 明への進出意向

- 1. 正義、厳格、冷徹
- 2. 革新、急激、変更
- 3. 登る為に何でも

- 1. 義昭・信長士官
- 2. 比叡山焼打ち
- 3. 複合的な動機

- 1. 保守的、優しい、忠実
- 2. 教養文化人(歌・茶道)
- 3. 有職故実(儀式、朝廷)

単独

怨恨

- 1. 信長に感謝(天正9: 明智軍法)
- 2. 接待役から毛利攻めに、国替え
- 3. 四国政策変更: 元親に面目なし

野望

- 1. あめが下しる(惟任退治記)
- 2. 一夜なりとも天下の夢(川角)
- 3. 日本の主となる(ルイス)

ノローゼ

- 1. 非道阻止(朝廷)
- 2. 早い出世、ノルマプレッシャー
- 3. 疲労困憊

一族存続

- 1. 土岐明智一族存続・復活

黒幕

秀吉

- 1. 最大の受益者
- 2. 信長を恐れ光秀はライバル
- 3. 中国大返し手回しの良さ

家康

- 1. 信長同盟
- 2. 嫡男・正室が殺害
- 3. 武田氏滅亡で不要

元親

- 1. 光秀が信長取次
- 2. 本願寺降伏後、信長方針変更

義昭

- 1. 信長から京都追放
- 2. 征夷大將軍は許せず
- 3. 光秀の旧主人

朝廷

正親町天皇
近衛前久
勧修寺、兼見

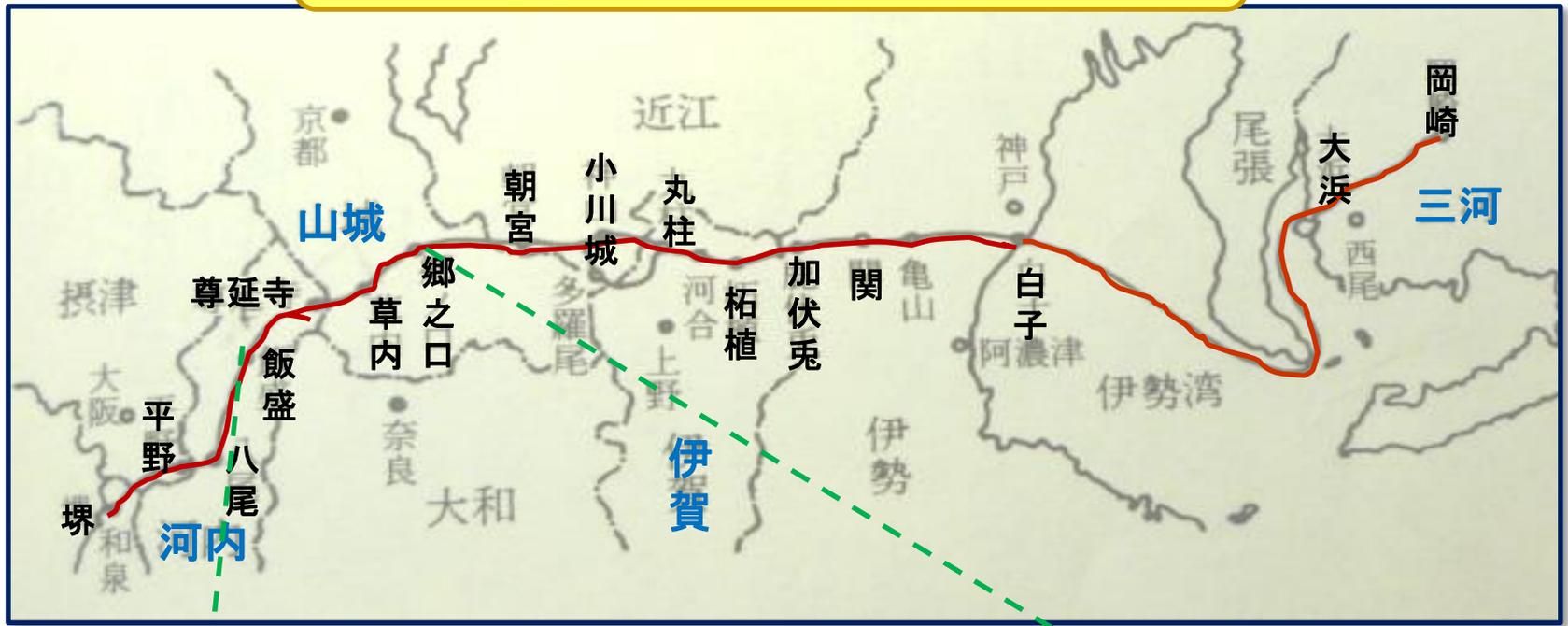
イエズス会

信長神格化
を危険視

本願寺

- 1. 永年の仇敵
- 2. 講和後も抵抗

伊賀越え経路(堺～岡崎)



宇頭城越え



宇頭城方面

府道71号
枚方山城線



草内(くさじ)の渡し



普賢寺谷



「苦難の逃走」 交野(星田)～京田辺



しゃみ安屋敷跡



伝 家康ひそみの藪

天正十年六月二日(一五八二年)
織田信長が京都本能寺において
明智光秀の反逆によって自害
した。そのとき少人数の近臣
を連れて堺に滞在していた
徳川家康は、いち早くその情報
を入手するや身の危険を感じ
即刻堺を出て本国三河へ帰る
ことにした。その日の深夜
家康はこの竹やぶにひそみ
村の長、平井氏に連絡して
山城方面に出るため道に精通
する農民を道案内人として
出すよう依頼した。

平井家では沢山の握り飯を
鶴の絵を描いた大皿に盛って
提供し、信用のおける二人の
農民を選出して無事に道案内
内の大役を果たさせたといわ
れている。

交野古文化同好会

交野古文化同好会

伝 家康ひそみの藪
交野市立妙見坂小学校

宇治田原郷之口

宇治田原歴史の道

蕪村の宇治行～田原の隠れ里

俳人・画家の与謝蕪村は、最晩年の天明3（1783）年に弟子の招きで来訪して松茸狩りなどに興じ、そのもようを「宇治行」に記した。その中で蕪村は高尾の絶景に驚き、宇治川上流の景色を詠んでいる。

宇治田原では蕪村に師事する俳人が社中を構成し、今も蕪村に関する資料が多く残されている。

高尾・荒木地区は万葉歌人施基皇子（田原天皇）にまつわる伝承も残されている。

信楽街道～家康伊賀越えの道

宇治田原町の郷之口～奥山田地区を東西に横断する「信楽街道」は、山城と近江を結ぶ重要な交通路のひとつだった。

天正10(1582)年、織田信長が倒れた「本能寺の変」が勃発すると、堺に逗留していた徳川家康は、少数の供を連れて宇治田原に入り、郷之口の山口城で休憩後奥山田から信楽に入り、伊勢湾を渡って三河に帰国したという。

野島 宇治田原町の北東部に位置し、宇治川が流れる。昔は舟着場として栄え、現在も美しい風景が残っている。

高尾 宇治田原町の南東部に位置し、高尾山がそびえる。昔は高尾の絶景が有名で、現在も多くの観光客が訪れる。

大室神社 宇治田原町の南西部に位置し、大室山に祀られる。昔は神宮寺として栄え、現在も多くの参拝客が訪れる。



山口城跡 宇治田原町の北西部に位置し、山口川が流れる。昔は山口城として栄え、現在も多くの観光客が訪れる。

山口城跡 宇治田原町の北西部に位置し、山口川が流れる。昔は山口城として栄え、現在も多くの観光客が訪れる。



山口城跡 宇治田原町の北西部に位置し、山口川が流れる。昔は山口城として栄え、現在も多くの観光客が訪れる。

山口城跡は、徳川家康が伊賀越えの途中、宇治田原に入り、山口城で休憩したと伝わる。城址の北側は、城の川といわれ、城の堀がありました。近年、古堀の跡が掘り出されました。

平成五年 刊

宇治田原町

近江



山城

伊勢

伊賀

大和

犯人・動機

本能寺の変の考察

新史料の発見 (岡山市林原美術館)

斎藤利三・長宗我部元親の書状 (石谷家文書) いしがい

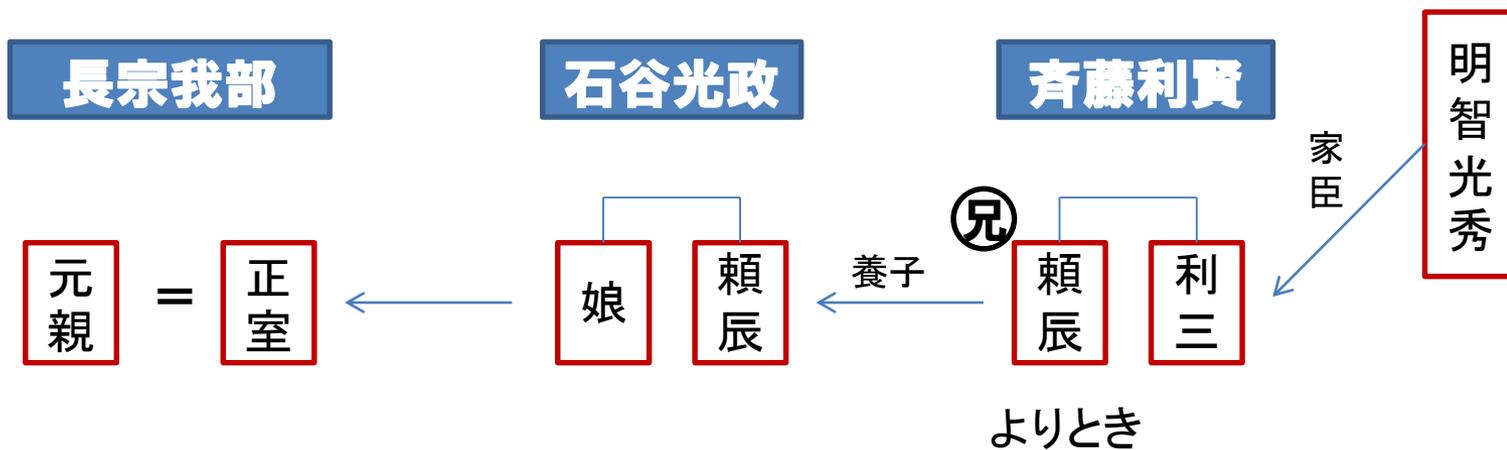
1/21 付 利三 => 元親に恭順書状

5/21 付 元親 => 石谷光政 (=>利三宛...>光秀)

「信長の命令に従う」が、

土佐、阿波の一部は、なんとか交渉をして欲しい。

もし、不可ならば、成敗されるのも仕方ない。



連歌興行

発句 惟任日向守光秀

ときは今あめが下なる五月哉

水上まさる庭のなつ山 脇西之坊

花落る池のながれをせきとめて

第三紹巴

か様に百韵仕り、神前に籠置

連歌興行

発句 惟任日向守光秀

ときは今あめが下なる五月哉

水上まさる庭のなつ山 脇西之坊

花落る池のながれをせきとめて

か様に百韵仕り、神前に籠置

2013.04

【信長公記池田家本写真撮影】

『信長記』岡山大学池田家文庫等
刊行会編、福武書店、1975年出版